仙台安積桑野会会報 26号
H16.5.1

【共学一期生寄稿 117期】特集

巣立った共学一期生

―安積で学んだもの―

21世紀とともにスタートした安積高校の共学一期生が今春三月、卒業した。伝統を誇る安積の歴史に大きな変化をもたらした男女共学制の中で、生徒たちは三年間に何を学び、何を得たのか。

仙台の大学に見事合格し、キャンパスに学ぶ男女各二人、四人の第百十七期生に安積の思い出を綴ってもらった。

伝統の重み

加藤　円
高五十六期
進学先　東北大学　文学部　人文社会学科
出身中学校　郡山市第一中学校

女子第一期生として安積高校の門をくぐって、早くも三年の月日が過ぎました。私にとってこの期間は、自己実現に向けた数々の模索の期間だったように思います。そんな中、安高生であるということは、誇りであり、支えともなりました。

入学当初、安積高校の伝統というものには全く免疫が無く、応援歌練習の際には大分苦しい思いをする事になりました。「体力の無い女子への配慮が足りないのではないか」というクレームも多くありましたが、今現在思うと、私達女子を同等に扱う事を決断してくれた先輩方に、心から感謝の意を述べたいと思います。私達を安高生として認めて下さった事への感謝です。通過儀礼とも言える応援歌練習を経て、安積のなんたるかに対する意識が芽生えたように思います。

女子が入る事で、それまでの安積の伝統が姿を変えるのは必然です。ＯＢの方々からの反対意見が多く聞かれたのも、当時は不満にさえ感じましたが、今となっては安積の伝統を慕うが故だったのだと頷けます。変化は否めませんが、安積で３年間を過ごし、それを誇りに思っている私達百十七期生も、伝統の最も新しい一部として認めて頂けたら、心から嬉しく思います。

ところで、安積は『文武両道』を掲げていますが、私は３年間弓道部に所属していました。私が最も多くの事を学んだのは、この活動の中でだったといえると思います。百十七期の部員男子４名、女子12名は、良い指導者と先輩方に恵まれ、顧問の先生方に支えて頂き、素晴らしい時間を過ごせたと感じています。それぞれ進路を違えた今も、交流は現在形です。これはやはり、同じ目標を志した仲間だからこそのものだと思います。普段の練習から、皆が全力で努力して競い、結果を残してきました。団体で、射場に立てるメンバーは５人だけですが、選ばれた者は、他の仲間達の応援を励みに精一杯『安積の射』をしたし、応援にまわった者は心からの声援をおくっていました。礼記・射義・に、次のような節があります。『射は正しきを己に求む。・（中略）・己に勝つ者を怨みず。反ってこれを己に求むるのみ。』これは、私が弓道から学んだ最大の教訓ですが、私達弓道部ではまさにこれが実践されていたように思います。これは弓道においてだけではなく、部内からは常に６人前後が、各種試験の５０番以内に名を連ねていたし、それに触発されて皆が高い理想を持っていました。だからこその充実した部活動でした。私は、最後の大会前に故障をして、納得が行くどころではない酷い結果を残しての引退となってしまいましたが、弓道には感謝しています。結果ではなく、最高の仲間達と励まし合い競い合った事が、素晴らしい糧だと思えるのです。

私が安積で学んだのは、理想を自分に求める根性だと言えます。まだまだ自分に満足はして

最前列向かって右から四番目が私↑加藤　円です

卓球と数学に熱中

鈴木　智之
高五十六期

いないし高校時代にやれた事、やるべきだった事はもっとあったと思っていますが、同時に、安高でなかったら、今の自分以上では有り得なかっただろうとも確信しています。これからも、安積が母校である事に誇りを持って、夢の実現に向けて努力していきたいと思います。

進学先　東北大学理学部数学科
出身中学校　郡山第七中学校

光陰矢のごとし。

僕の高校生活三年間は、まさに矢のように過ぎ去ってしまった。今、振り返ると部活で頑張った日々、文化祭、ロードレース大会などの学校行事、受験勉強に苦しんだことなどは、まるで昨日のことのようだ。僕がこの三年間で最も打ち込んだのは、やはり部活の卓球である。初めて県大会に行ったときのことは、今でもはっきりと覚えている。フルセット10対6。あと1点で僕の勝ちというときだ。僕は勝ちを確信していた。次の一球。僕は絶好の球を空振りした。急に体が動かなくなった。相手が大きく見え、不安で一杯になった。気づくと同点になり、僕は負けていた。

悔しかった。相手に負けたことより、あと1点だと思って自分に負けたことが悔しかった。他のどの試合よりもはっきりと覚えている。この試合は僕の高校生活で得た一番の教訓であると思う。

また、僕の三年間は出会いの時期だったと思う。この三年間、僕はさまざまなものとであった。それぞれが素晴らしい個性を持った友達、やさしい先生方、アメリカにホームスティしたときお世話になった僕のもう一つの家族　―。

そして数学。

僕は去年、平良誠先生に誘っていただいたことがきっかけで数学オリンピックに出場した。先生の指導のおかげで、東京で行われたファイナルまで進出することが出来た。数学オリンピックでよい成績を収められたということは僕にとってすごく自信になったし、その他にもSSHで大学の先生による講義を聞いてますます興味が湧いてきて、僕は大学で数学をもっと深く勉強しようと思うようになった。去年の夏には、東北大学に行き、実際に大学で講義を受けるという経験もすることが出来た。全てを理解することは出来なかったが、この経験も僕の進路に大きく影響を与えた経験であった。数学科へと進むきっかけを作ったり、いろいろとアドバイスを下さった平良先生には本当に感謝しています。ありがとうございました。

この三年間は家族にもとても支えられた三年間だと思う。ケガもなく、病気もなく、皆勤で学校に通えたのも、自分一人だけの力ではないと思う。

これから一人暮らしが始まり、自分一人の力で生活していくことになる。大学生として、一人の人間として責任のある行動を取らなければならないと思う。そして光陰矢の如し。矢のように速い時間の中の一分一秒を、これからも精いっぱい生きて行こうと思う。

自主自律の精神

堀口　隆
高五十六期

進学先　宮城教育大学

学校教育教員養成課程(社会科教育専攻)
出身中学校　郡山市第五中学校

自分は男女共学一期生として無事に卒業したわけだが、在学中に特にこれといって男女共学を意識したことはなかった。もちろん先生方や周囲の人達が自分達に注目していることは入学してからずっと言われてきたことだし、感じてきたことだが、自分達は小・中学とずっと共学だったので高校でも共学なのが当たり前のように思い、逆に男子しかいない上級生に違和感を覚えた。なので男女共学については特に書くことは無い。

自分が安積高校に入って思ったのは、安積はとても自由な学校だということだ。このことは先輩方も少なからず感じたことだろうとは思うが、この場合の「自由」とは何をやってもいいということではなく、自分の判断に基づき、自分で行動するということである。これは安積の教育方針である「自主自律の精神を培う」ということにも繋がると思うが、安積では、先生が生徒にあれこれとあまり言わず、なるべく自分達でさせようとしている。それは日々の生活のこともそうだが、学習面においてもそうである。安積は進学校だからもっと先生方も勉強勉強と言うとおもっていたので、当初は逆に言わない事に驚いた。ここで付け足すと、言っているのだがとても軽いのである。

今卒業して思うに、先生方は言わなくても自主的にやってほしかったから、あのような態度をとっていたのではないかと思う。それは自分達がもうそれくらいのことをやって当たり前の年齢であるということを、本人に自覚してほしいということではないか。高校を卒業する十八という年齢は車の免許も取れるし、親の許しがあれば結婚もできる年齢である。これからはよりいっそう自分の責任と自覚が求められるようになる。そのためには自分で物事を判断して行動していかなければならない。自分は安積での三年間で自分で考えて行動することの難しさと大切さを知った。これからまた大学という新たな場所での生活が始まり、高校とはまた違う環境に戸惑うこととは思うが、安積で学んだことがきっと大学でも活かされると思う。これからのことを考えると不安もあるが、不思議と大丈夫という気持ちのほうが強い。自分にも安積魂があるのかと思うと、何かとても大きな物に守られている気がする。

貴い体験 応援歌練習

水沼　久実
高五十六期

進学先　東北大学医学部　看護学専攻
出身中学校　須賀川市稲田中

つらく長い受験勉強をやっと終えることができ大学入学までの短い間にゆっくりと息抜きしたいと思っていた時に、仙台安積桑野会から原稿執筆依頼があり、またまた頭の痛い思いをしています。でも安積高校男女共学第一期生として、これまでの自分を振り返る機会を与えていただいたことに感謝しています。

共学というのは、小・中学校の延長だと思っていた私には、安積高校入学前のオリエンテーションでの男女共学化についての思い入れの強い話を聞いて、とても不思議に感じました。しかし新入生歓迎会での男子だけの先輩方の熱い出迎えに圧倒されながら、これまでの男子校安積にほんの少し触れて、入学できた喜び、嬉しさから一転、女子生徒としてこれから周囲の期待に応えていけるのか、とても不安でした。

また、入学してまもなく始まった応援歌練習では、応援団の先輩も私たち女子に対してどのように接したらよいか、戸惑っていたようにも見えましたが、例年通り指導していただき、歌を覚えるのにどうしてこんなに辛くて恐ろしい思いをしなければならないのかと、念願だった安積高校に入ったことを後悔したほどでした。この長い一週間の間に、同じ思いの友達とは絆を深めることができたし、精神的に成長できたと思います。

応援歌練習は、安積の伝統や安積スピリッツを教えてもらった貴重な体験です。はじめの一年間は、全てが新鮮で懸命に先輩について行きました。

二年目には、「スーパーサイエンス・ハイスクール」指定校として全国から選ばれ、学ぶに

は恵まれた環境だったと思います。修学旅行、文化祭もあり、先生方とまた新しい安積を創り上げた年でした。

男子のみの最後の先輩方が卒業して、安積高校は男女共学完成となりました。受験勉強も本格的になって忙しかったせいか、三年間で一番短く感じました。

勉強というのは一人でもできることですが、共に学ぶことで切磋琢磨し、気持を高め、クラス、学年全体で学習に集中できる雰囲気を作ることが大切だと思います。だから私が大学に合格できたのも、熱心に教えてくださった先生方、同じ場所で共に学び、励ましてくれた友達、何も言わず支えてくれる家族のおかげです。心から感謝しています。

四月からは、仙台で一人暮らしをしながらの新しい生活が始まります。

どんな人と出会うのか楽しみです。謙虚に日々努力し、いろんなことに挑戦していくことで、偏らず、社会に貢献できる人となりたいと思います。

男女共学化、制服自由化という歴史的年に入学でき、多くの素晴らしい先輩が過ごした場所で三年間学べた事、とても誇りに思っています。

本当にありがとうございました。

安積の青春譜

剣道部は６月の県高体連で男女とも団体戦・
個人戦を制し４部門完全制覇

「声が小さいぞー！」
新入生を待ち構える応援歌の練習
安積精神が叩き込まれる。

安積高校の平成十五年度クラブ活動は大いに振い、校内行事なども盛り上がった。
（校内誌「紫の旗行くところ」「安積野」より）

合唱部は男声合唱が東北大会で金賞
混声合唱は県大会で金賞、東北大会で銅賞

一年生に部活を紹介する新入生歓迎会
熱心さのあまり様々なパフォーマンスも登場
実ににぎやか